

理念	小集団での活動において、職員は一人ひとりの発達や興味を踏まえ、子どもたちとの情緒的な関わりを通じて、人と関わる楽しさから、色々な場面や相手に向かう姿勢を育みます。やりとりを通じて、ことば・表現(コミュニケーション)の力を身に付けます。遊びや活動で大人も一緒に、楽しいね！面白いね！すごいね！などの気持ちを大いに表出し、子どもと・周囲と共有共感しながら豊かな情緒を養います。		
療育コンセプト	<p>○並行通園 一人ひとりの発達や興味を踏まえ、子どもたちとの情緒的な関わりを通じて、人と関わる楽しさから、色々な場面や相手に向かう姿勢を育みます。やりとりを通じて、ことば・表現(コミュニケーション)の力を身に付けます。遊びや活動で大人も一緒に、楽しいね！面白いね！すごいね！などの気持ちを大いに表出し、子どもと・周囲と共有共感しながら豊かな情緒を養います。</p> <p>○親子療育 月曜親子(月に3回程度)、土曜親子(月に1回程度)の親子療育グループ構成。 家族支援の視点で、保護者と共に、子どもと一緒に、楽しいね！の心の共有を探して、全職員参加のミーティングを通じて、一緒に子どもの理解を深めていく事を理想としています。保護者からのニーズに応じて、テーマを決めたお話会や、就学に関しては定期的な勉強会を実施します。また、発達や特性についてだけでなく、育児や兄弟などの相談にも対応します。</p>		
開所時間	9：30～12：30及び14：30	送迎有無	状況によって有り

ふぁーろの支援内容について、5領域と活動・プログラムの関連は次のとおりです。

領域	ねらい		
「健康・生活」	(a) 健康状態の維持・改善 (c) 基本的な生活スキルの獲得	(b) 生活のリズムや生活習慣の形成	
	<p>(a) 健康状態の把握 HUGの連絡ツールを活用して通所当日朝の様子を聞き取り、通所時の検温等も含め、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。 通所中は看護師等の医療知識を持つスタッフを中心に、小さなサインから心身の異変に気づけるよう努める。</p> <p>(b) 生活のリズムや生活習慣の形成 「よく遊び、よく食べ、よく寝る」「親も子も心穏やかに過ごせる」基本的な生活のリズムを身に付けられることを目的とする。 遊び：朝のサーキット遊びや運動遊びプログラム、園庭遊びを通して、一日60分以上身体を動かす機会を設ける。 食事：大人も一緒に食事することで、食事が楽しいものと捉えていく。また、感覚触遊びを通して食材に触れる経験からまずは「食べてみたい」と思える経験につなげていく。 睡眠：睡眠時間のばらつきや入眠への対応は保護者および医療機関と連携し、本人と家族の生活に焦点を当てた対応と一緒に協議していく。</p> <p>(c) 基本的な生活スキルの獲得 手洗い、身の回りの整容、身支度、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的な技能を獲得できるよう、大人がモデルを示し習慣づけを目指す。また、順序やスケジュールを視覚化しについては、先の見通しを持った生活が送れるように支援していく。</p>		
領域	ねらい		
「運動・感覚」	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (c) 感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応	(b) 保有する感覚の活用	
	<p>(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 理学療法士の見立てによる朝のサーキット遊びや運動遊びプログラム、スタンブラリーの微細運動ブースを通して、幼児期に必要な基本的な動作の経験を経て協調的な動きを獲得していくことで、利用児が安全に生活および遊ぶことができる身体づくりを目指す。 また、感覚統合遊具を活用し、個々の感覚特性に合わせた基礎感覚への刺激からボディイメージの形成および学習へつながる身体づくりとなる機会を設けていく。</p> <p>(b) 保有する感覚の活用 運動遊び、感覚触遊び、おとうた遊びのプログラムを通して、土台となる触覚、視覚、聴覚、前庭感覚、固有感覚、嗅覚、味覚を育て、心地よい感覚の入力から心と身体の発達を促していく。</p> <p>(c) 感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応 個々の感覚特性を把握し、本人の要望も受け入れながら、環境調整や補助ツールを活用していく。 両親および本人のニーズと専門職(理学療法士)の見立てに対し、(a)～(c)の支援内容をベースとした専門的な支援を行っていく。(専門的支援実施加算)</p>		
領域	ねらい		
「認知・行動」 感覚感覚 運動 おとうた	(a) 認知の特性についての理解と対応 (b) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得(感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、認知や行動の手がかりとなる概念の形成) (c) 行動障害への予防及び対応		
	<p>(a) 認知の特性についての理解と対応 「楽(たの)・スタンプラリー週」を定期的開催する。5個のブースに認知全般の項目を充て、定期的なアセス</p>		

<p>メントの機会とする。</p> <p>(b) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 朝の会などの集まりでは、リードの先生に対して集団とのやり取り場面を設定し、物の名称から、数・量・大小、空間認知に至るまでの概念を知る機会としている。また、スタッフのパフォーマンスに対して、自由発信の機会から、周囲の動きに気付き、思いや気持ちを遠慮なく相手に向けて出す経験とする。</p> <p>(c) 行動障害への予防及び対応 活動全般で、個々の発達段階に合わせたゴールを設定し、また、参加のペースもそれぞれの歩幅に任せる環境を保証している。その事からは、子どもたちが安心して主体的に参加行動することが期待できる。</p>	
領域	ねらい
「言語・コミュニケーション」	(a) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (b) 言語の受容及び表出 (c) 言語の形成と活用 (d) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 (e) 状況に応じたコミュニケーション
<p>(a) コミュニケーションの基礎的能力の向上 感覚・感情あそびでの感情共有を伴うやりとり、音うたあそび・運動遊びでの模倣やごっこ遊びを通じて、言語/非言語問わず、相手と一緒に、伝えたい思いを募らせ、伝わる体験場面とする。人とのやり取りが楽しいと思える気持ちを育みながら、伝えるための手段を育んでいく。</p> <p>(b) 言語の受容と表出 生活全般でことば遊びを散りばめ、聞く事への意識を高めることをねらいとしている。パフォーマンスに対して、遠慮なく突っ込める機会も同様に与え、楽しみながら発信をする機会としている。 集団の中で相手に伝わる喜びや嬉しさを実感し、もっと伝えたい意欲を伸ばす。また、自分の思いが伝わる経験を通して、相手の意見にも耳を傾けようとする行動を促していく。</p> <p>(c) 言語の形成と活用 ティータイムなどで、欲しい物の選択場面を通じ、気持ちや要求の言語化をすすめている。主に感覚・感情あそびでのやりとり遊びを通して、具体的な事・物や体験からの概念形成と、形容詞等を用いての感情や気持ちの表現・言語化もねらいとしている。</p> <p>(d) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 生活・活動全般で、一方通行にならないコミュニケーションを意識して関わる。言語だけでなくアイコンタクトや、指差し、身振り等での共有を前提に関わり、発信しやすい・表出したい環境を保証する。</p> <p>(e) 状況に応じたコミュニケーション 日常のコミュニケーションに加え、イレギュラーな質問や場面設定なども意識して取り入れている。必要に応じ、大人がモデルを示しながら、個々の特性（情緒、感覚等）に応じて対応の引き出しを増やしていく。</p>	
領域	ねらい
「人間関係・社会性」	(a) アタッチメント（愛着）の形成と安定 (b) 遊びを通じた社会性の発達 (c) 自己の理解と行動の調整 (d) 仲間づくりと集団への参加
<p>(a) アタッチメント（愛着）の形成と安定 生活・活動全般で、子どもも大人も一緒に遊び、心と身体をたっぴり動かすことで「この人といると楽しい」「安心できる」関係性を築き、その信頼関係を軸に、周囲の人との安定した関係形成を広げていくための基盤を作る。</p> <p>(b) 遊びを通じた社会性の発達 運動遊びやおとうた遊びでは、順序やルールのある遊びを経験する。誘い誘われる経験や合図を出す係など、集団の中での役割や居場所を増やしていく。</p> <p>(c) 自己の理解と行動の調整 活動プログラムを通じた様々な経験や他者との比較の中で、自分の得意/不得意や好き/苦手、嬉しいこと/怒れること、または感覚特性などの理解も深める。特性に寄り添った支援から、段階的に行動や情緒の自己調整ができるような心を育てていく。</p> <p>(d) 仲間づくりと集団への参加 運動遊びやおとうた遊びでは、感覚機能や運動機能をたっぴり働かせる遊びを通じて集団や枠のある遊びへの抵抗を減らし、見立て遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びの楽しさを実感できるように関わる。</p>	
領域	ねらい
移行支援	(a) 保育所等への移行支援、ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備 (b) 保育所等と併行利用している場合における併行利用先との連携 (c) 同年代のこどもをはじめとした地域における仲間づくり
<p>関係機関連携・保育所等訪問各サービスの活用 関係者会議（ご家族・所属園・事業所＋相談支援事業所等）の開催 訪問支援（直接処遇）所属園の先生方との見立て・支援の方向性の共有・保育下の直接支援の提案・研修の開催 小学校への接続支援（サポートかけはしシートの活用）、引継ぎの実施。 子育て支援ひろばでの運動</p>	
領域	ねらい
地域支援・地域連携	(a) 通所することにも関わる地域の関係者・関係機関と連携した支援
<p>医療との連携・実態把握書を活用した状況共有の促進、同伴受診 訪問支援（直接処遇）所属園の先生方との見立て・支援の方向性の共有 小学校への接続支援（サポートかけはしシートの活用）、引継ぎの実施。</p>	